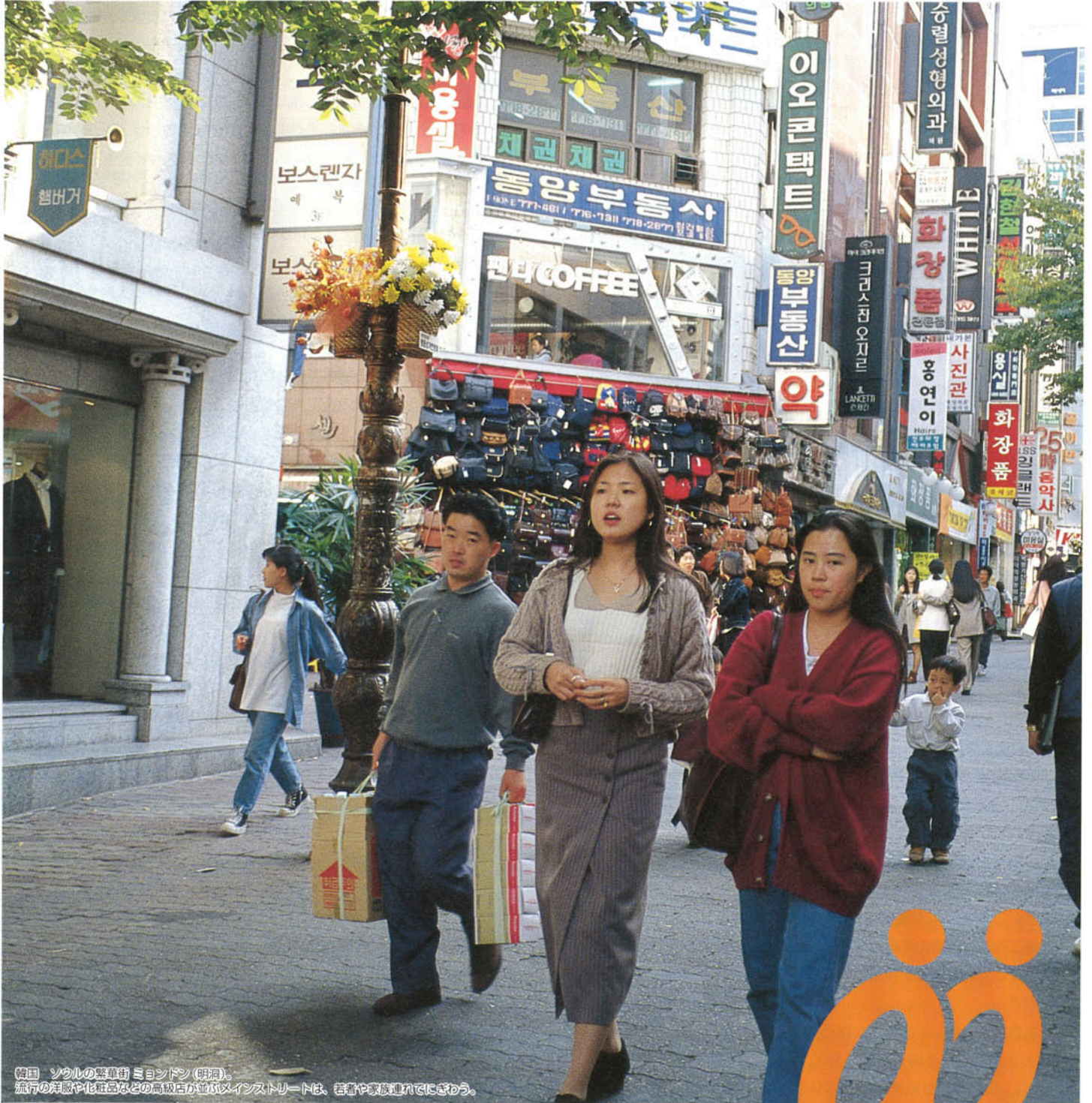


# Asian Breeze



韓国 ソウルの繁華街 ミヨンドン(明洞)。  
流行の洋服や化粧品などの高級店が並びメインストリートは、若者や家族連れでにぎわう。

第4回世界女性会議に向けて.....	2
新理事長あいさつ.....	6
第4期海外通信員レポート.....	7
第5期海外通信員紹介.....	10
フォーラムの窓.....	11





## 第4回世界女性会議に向けて

第4回世界女性会議は、「国連婦人の十年」最終年の1985年にナイロビで開かれた第3回世界女性会議から10年ぶりに開かれる女性会議です。政府間会議は9月4日～15日に開催され、会議では、ナイロビ会議で採択された「2000年に向けての女性の地位向上のためのナイロビ将来戦略」の実施結果を評価し、21世紀に向けてどのような取り組みを行っていくか、その重要な問題点を集めた行動綱領を採択することになっています。また、8月30日～9月8日にはNGOや個人が参加するNGOフォーラム'95が開催されます。世界女性会議の全体的な展望や準備状況について紹介します。

国際連合が成立した1945年のサンフランシスコ会議には、何百人もの代表者の中に女性の姿はほとんどありませんでした。国連憲章に署名している女性は6人にすぎません。女性の会議参加者が少なかったという事実は、当時の女性の状況を反映しています。女性は、政治の場では重要な役割を担っていませんでした。そして50年後の今日、トルコ、アイルランド、バングラデシュ、ノルウェー、パキスタン、スリランカといった国々には女性が元首になっています。

国連憲章の中で国連の主要目的として再確認された男女平等について、これまでに何が実現できたのかという疑問が呈されることがあります。なぜ、今なお女性は、不平等や政治的意思決定への参加機会の欠如、その他女性が直接影響を受ける多くの問題に苦しまなければならないのかという疑問です。しかし、現実には、1975年にメキシコで開催された国際婦人年世界会議以降、女性は、社会的にも、経済、政治の分野でも進歩を遂げてきました。あれからわずか20年です。私たちが取り組まなければならない問題は、何世紀も前から存在しているものであり、短期間で奇跡を起こすことはできません。

北京で開催される第4回世界女性会議とNGOフォーラムには、男女2万人の参加が見込まれています。女性の代表がわずか6人であったサンフランシスコ会議に比べれば、これは、女性の大きく重要な前進だと言えます。このような前進は、この50年間、女性問題に対する意識の高揚を図ってきた成果にほかなりません。これは、女性の地位向上を目指して国連が提唱したさまざまな活動の賜物です。

北京会議は新しい出発点となるでしょう。会議では、女性の地位向上を妨げている障害を取り除くために、各国政府、国際機関、NGO、市民が取り組まなければならない課題や行動について議論されることになっています。これは、21世紀を迎える前になされなければならないことです。3月には、ニューヨークで、国連婦人の地位委員会の最後の準備会議が開催され、行動綱領の草案が議論されました。この委員会の議長は、アジアの皆さんの同胞であるマニラ大学心理学教授のバトリシア・リクアナンさんです。

北京会議では、女性の地位向上に向けて世界的に関心の高い12の重要な問題点を指摘・分析した行動綱領を採択する予定です。ま

た、平等、開発、平和を実現するために必要となる具体的な活動を明らかにします。行動綱領の12の重要関心領域は次のとおりです。

1. 女性への持続し増大する貧困の重荷
2. 教育を受ける機会の不平等
3. 保健及び関連サービスを最大限に活用するための手段へのアクセスの不平等
4. 女性に対する暴力
5. 武力及びその他の種類の紛争が女性に及ぼす影響
6. 経済構造及び政策の決定への女性のアクセス及び参加の不十分
7. 地域、国家、国際レベルにおける権力及び政策決定の男女間の分担の不平等
8. あらゆるレベルにおける女性の地位向上を促進するための機構の不十分
9. 国際的及び国内的に認められた女性の人権の認識及び関与の欠如
10. 女性の社会への積極的な貢献を促進するためのマス・メディアの活用の不十分
11. 天然資源の管理及び環境の保護に対する女性の貢献の十分な理解と支援の欠如
12. 女兒に対する持続的差別及び権利の侵害



第4回世界女性会議事務局長  
ガートルード・モンゲラ

行動綱領の草案は、単に問題点の記述や状況の分析にとどまらず、問題の核心、つまり、1975年以降開催された3つの女性会議から生まれた多くの尊い公約が実践に至っていないことを指摘しています。会議が終わり行動綱領が採択されると、平等の原則に基づいた社会を築くための枠組みが男女両方に与えられます。これはまた、各国政府や国際機関に対して明確で簡潔な指針を示すことにもなります。

会議を成功に導くためにアジアの女性が果たす役割は大きなものがあります。アジアは、経済的、政治的、文化的に重要な地位を占めつつあります。従って、女性たちはそれぞれの国で政治的意思決定の場に参画し、経済成長の恩恵を共有できるようにならなければなりません。平等を獲得するための活動を政治指導者に託してしまってははいけません。たとえ草の根レベルの活動でも、主導権を持つことがとても大切です。男女が平等な立場で共に参画すれば、大きな変革を成し遂げることができるでしょう。それは長い道のりかもしれませんが、私たちは、女性の地位向上を達成し、次の世代のためによりよい世界を築かなければなりません。



## 日本国内の取り組み

### 国内委員会の発足

国連の第4回世界女性会議を9月にひかえ、婦人の地位委員会を中心とする国連の準備活動をはじめ、世界女性会議と並行して行われるNGOフォーラム'95に参加する女性団体、グループの動きが活発です。この一連の会議に対する関心が過去3回の世界会議に比べ高いのは、女性問題を重視する世界的な動向によるものですが、同時に国連自体の姿勢を反映しているとも言えます。国連は今年10月に創立50周年を迎えますが、その記念すべき年に開催される世界女性会議を早くから重視してきました。つまり、この会議を契機として第1には国連が憲章にうたった男女平等を確認し、過去50年、女性の地位向上に果たした役割と成果を検証し、第2には21世紀に向けてジェンダー視点を国連の諸政策にいかに組み込むか、国連の課題と挑戦の機会と位置づけています。従って、女性会議を成功させるための方策のひとつとして各国政府に対し、国内委員会を設けNGOとの協力のもとに準備することを呼びかけました(1992年、婦人の地位委員会勧告36/8)。この勧告を受け、日本においても1993年10月12日国内委員会が発足しました。

### NGO部会の活動

国内委員会は、内閣総理大臣を委員長、女性問題担当大臣を副委員長とし、委員は政府側から関係22省庁の事務次官と民間側33人(うち男性9人)。民間委員は研究者、行政経験者、女性団体、労組代表、マスコミ関係者等で、1994年1月にNGO部会を設置しました。その活動を大別すると、(1) 国別報告への意見の取りまとめ、(2) 世界会議等関連の諸問題についての情報収集、(3) 世界会議等に関する情報提供です。

#### (1) 国別報告

世界会議では恒例により、国連事務局から主要討議資料として各国の女性の状況をまとめた文書が提出されますが、その素材となるのが各国のナショナル・レポート(国別報告)です。国別報告作成にあたってはNGOの意見を盛り込むことが求められ、日本ではNGO部会がかかりました。同部会は、日本の女性をめぐる状況について、法制上はかなり整備されたものの、社会のあらゆる分野への女性の参画、特に方針決定の場への参画が十分でなく、その背景として性別役割分業意識と慣習の強いことを指摘しました。国別報告は政府作成の文書ですから、NGOの意見を盛り込むには、あ



▲日本国内委員会の第1回会議



日本国内委員会NGO部会長  
縫田 暉子

る程度の限界はありますが、政府の報告書作成にNGOがかかわったことは異例のこととして評価されました。

#### (2) 情報収集

NGO部会では世界会議の準備状況や議題となる諸問題についての情報を把握するため、随時関係者によるブリーフィングを行っています。たとえば、婦人の地位委員会関連の諸活動、世界会議準備のための「開発と女性に関する第2回アジア太平洋大臣会議」(1994年6月ジャカルタ)、「国際人口・開発会議」(1994年9月カイロ)、「世界社会開発サミット」(1995年3月コペンハーゲン)の報告、またNGOフォーラム'95関連では、準備状況について同フォーラムのアイリン・サンチャゴ事務局長や中国の準備担当者からの報告、NGOフォーラムの地域準備会議「開発と女性NGOシンポジウム」(1993年11月マニラ)、「東アジア女性フォーラム」(1994年10月東京ほか)について参加者からの報告を聞き、意見交換を行いました。

#### (3) 情報提供

NGO部会が収集する情報は、上記のブリーフィングを含め、可能な限り広く女性団体、グループの代表、マスコミにも公開していますが、さらに年間4回程度、ニュースレター(A4版、4ページ)を発行し、世界会議、NGOフォーラム関連の情報を提供しています。また、地方都市の協力を得て「第4回世界女性会議を考えるフォーラム」を開催し、NGO部会メンバーと地元参加者との間で情報交換、意見交換を行いました。(塩尻、堺、富山の各市)

### NGO部会の役割

以上、国内委員会発足以降のNGO部会の活動について列記しましたが、同部会は国内委員会の一部ですから、NGOフォーラムに参加する多くのNGO関係者にとって、直接役立つ活動ではありません。しかし、NGO部会の活動がキッカケとなり、政府とNGO、NGO相互間の交流の場が生まれたことを特記したいと思います。たとえば、国別報告の作成、世界会議で採択予定の行動綱領案の討議にあたっては、NGO部会のメンバーだけでなく、さまざまな分野で広く活動している女性団体、市民グループとも意見交換の場を持つことができました。世界会議とNGOフォーラムは、相互にかかわりの深い会議ですから、両会議の関係者が情報交換、意見交換を行うことはとても意義があります。また、これを機会に今後、政府とNGO、NGO相互の交流が深まることを期待したいものです。世界会議のキーワードのひとつはパートナーシップです。政府とNGO、男女、世代間のパートナーシップが21世紀に向けて女性問題解決への重要な鍵となります。



## 最終準備状況



前総理府男女共同参画室長  
坂東 眞理子

ナイロビ会議から10年、1995年9月、中国の北京で開催される第4回世界女性会議では、「2000年に向けての将来戦略」の評価と見直しが行われ、新たな行動綱領が採択される予定です。

この行動綱領の原案について、3月15日から4月7日まで開催された国連婦人の地位委員会で検討が行われ、ブラケットつきの部分は多いものの一応の成案を得ました。行動綱領の構成は、I. 使命の宣明 II. 世界的枠組 III. 重要関心領域 IV. 戦略目標及び採るべき行動 V. 制度的整備 VI. 財政的整備 の6章からなっています。

重要関心領域は当初 (A) 貧困 (B) 教育 (C) 保健・医療 (D) 女性に対する暴力 (E) 武力紛争の影響 (F) 経済活動 (G) 政策決定への参加 (H) 制度的整備 (I) 人権 (J) マスメディア (K) 環境 の11分野でしたが、アフリカ地域ははじめ開発途上国の強い要望で、(L) 少女がつけ加えられました。

どの国も、行動綱領はシンプルで力強いものにすべきだと言っていたにもかかわらず、議論の過程でどんどん項目が追加され、文章が長くなっていきました。これを整理して、公表されるのは6月の社会経済理事会ではないかと言われています。このようにナイロビ戦略以上に長大なものになった理由はいろいろありますが、世界中の女性の置かれている状況が多様で、解決すべき問題が多いということ、世界環境サミット、世界人権会議、世界人口開発会議、社会開発サミットなど、一連の社会問題がらみの国際会議の成果を取り込もうという動きと、それに対する保守派の巻き返しがあったことが相互作用していると言えるでしょう。

保守派は、バチカン市国をはじめとするカソリック系の国ぐに、イランなどイスラム原理主義の国ぐになどで、雄弁に既に採択されている宣言の言葉にまでクレームをつけました。男女は平等だけれど同じではないとか、家庭や伝統文化の価値を大事にしようと主張していました。なかでも (C) のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ (D) 女性に対する暴力 (E) 武力紛争の影響などでは議論が白熱しました。

日本などの先進諸国では、職場の地位の不平等や賃金格差、政策



決定への参加、人権、マスメディアなどに関心が深いのですが、開発途上国では、貧困の克服、識字率の上昇、栄養、保健水準の上昇が切実な課題となっています。また女性に対する暴力については、物理的、性的、社会的なものを問わず、断固、根絶すべきだという意見が大勢を占めました。

今までの世界行動計画やナイロビ将来戦略は、日本の社会の男女の役割分担意識の見直し、民法、国籍法の女性の視点からの改正、差別撤廃条約の批准とそのための制度的整備としての雇用機会均等法の制定、家庭科必修、さらには育児休業法などに大きな影響を与えています。

今回の北京会議も、日本の女性が制度上の平等だけではなく実質的平等を勝ち取るための契機となることを期待したいものです。



▲北京・天安門広場

## NGOの動き

ところで、9月4日から15日までの政府間会議とともに8月30日から9月8日まで、NGOフォーラムが開催されます。

NGOの尊重というのはこうした国際会議の大きな特徴ですが、今回は3つの課題が残りました。

第1は、政府間会議のオブザーバーとして参加できるNGOの資格認証の問題です。認証されなかった団体について、その理由を明らかにし、再応募を認める決議案が採択されることになりました。

第2に衝撃的だったのは、NGOフォーラムの場所の変更を中国政府が申し出たことです。従来は北京市内の勤労者体育センターで開催される予定でしたが、安全上の理由から35マイル離れた懷柔という郊外のリゾート地へ移したいということです。NGO事務局も現地を視察してから正式に決定したいと言っています。NGOからは反発の声が強く、反対署名が集められていました。

第3は、NGOフォーラム参加者の多さ、地域的偏りも指摘されています。全体で2~3万人の参加者があると予想されていますが、日本が5千人~1万人、アメリカもその程度という声もあります。宿泊施設の問題もあり、日本に向けられる目は複雑なものがあります。

政府間会議には、約200か国、6~7千人の代表が参加すると見込まれています。ジャーナリストも3~4千人参加します。初秋の北京が、世界中から集まる女性のホットスポットになるのは確かでしょう。

(※本稿は4月20日に受領しました。坂東さんは現在、埼玉県副知事)



## フォーラムの取り組み

アジア女性交流・研究フォーラムは、これまで、第4回世界女性会議に向けてさまざまな準備活動を行ってきました。1993年11月にマニラで開かれたアジア太平洋地域NGOシンポジウム、1994年6月にジャカルタで開催されたアジア太平洋地域会議に参加したほか、1995年3月の社会開発サミットNGOフォーラム（コペンハーゲン）でも、北京会議に向けての女性の行動キャンペーン開始集会に参加するなど情報収集を行いました。国内でも、東京、神奈川で行われた東アジア地域のNGOの代表によるシンポジウム「東アジア女性フォーラム」への参加や、その報告会の北九州開催などを行ってきました。

現在は、北京会議でどのような活動をするのかについて最終の準備段階に入っています。

前号でお知らせしたように、フォーラムは北九州市民40人と共に北京会議に参加し、NGOフォーラムで「家族」と「環境」をテーマに2つのワークショップを開催する予定です。市民の皆さんは、それぞれが希望するグループに所属し、準備作業や会合を重ねています。その様子をご紹介します。

### 「家族」ワークショップグループ

「家族」ワークショップでは、家族のさまざまな切り口の中から、「高齢者」、「子供の教育」、「性別役割」の3つを選び、韓国、中国のパネリストを交えて、それぞれの国の家族の状況や問題点、今後の展望などについて意見交換を行う予定です。社会の変化に伴い家族の実態も変わりつつありますが、地理的、歴史的、文化的に関連の深い東アジアの家族について、国ごとの相違点や共通点を明らかにしたいと考えます。

そのために、グループでは北九州市民を対象に、結婚や子育て、高齢者介護などについてアンケート調査を行いました。アンケートは、学生、子育て世代、高齢者の3つの年齢層に対して実施しましたが、集計後、世代ごとの意識や問題の所在について比較しながら、北九州の状況を分析・把握します。北京では、この調査結果を踏まえて、韓国、中国のパネリストとともにディスカッションを行うことになっています。

さらに、北京会議に先立ち、7月6日（木）18:30から、北九州市立女性センターで、アンケート調査の中間報告会を開催します。市民の皆さんの参加をお待ちしています。お問い合わせの上、ご参加ください。



▲ワークショップグループの会合

### 「環境」ワークショップグループ

北九州市は、公害問題を克服した世界でも例のない都市の1つです。世界的に環境問題に対する関心が高まっている今日、北九州の経験を伝え、さらに、私たちが今後環境問題に関してどのような活動をなすべきかを考えるために、このワークショップを計画するものです。

北九州の公害克服の歴史に女性が果たした役割は大きなものがあります。工場の煤煙による健康障害などに悩まされた1950~60年代、女性たちは、「青空がほしい」キャンペーンを繰り上げ、降下煤塵や海水の検査など独自の実験や調査を行ったほか、企業との話し合いを続けました。その取り組みについて、当時自分たちの手で撮影・作成した記録映画を上映しながら説明する計画です。



▲アジアの環境保全に関する公開討論会

また、これまで資源を大量消費してきた先進工業国の一員として、生活の質を高め持続可能な開発を進めながら、環境問題を解決するために私たちに何ができるかについて、環境教育や省資源などの観点からの問題提起も合わせて行う予定です。

グループでは、6月8日に、プレ・ワークショップとして、北九州市にアメリカの環境NGO「ワールドワイド」や日本の「地球環境・女性連絡会」のメンバーを招いて、アジアの環境保全に関する先進工業国の女性の活動と役割をテーマに公開討論会を開催しました。この話し合いの結果も北京会議に反映する予定です。

北京会議は、アジアで初めて開かれる世界女性会議です。この会議にNGOの声を反映させ、会議を成功に導くためには、私たちひとりひとりの意識の向上が欠かせません。さらに、モンテラ事務局長の言われるように、この会議を21世紀に向けての新しい出発点とするためには、北京会議の成果をもとに実際に行動することが必要です。アジア女性交流・研究フォーラムは、アジアをはじめ世界中の皆さんと手を携えていきたいと考えます。ご意見や情報をお寄せください。

なお、フォーラムの2つのワークショップの開催は9月6日（水）（予定）です。北京会議に参加される多くの方がたの出席をお待ちしています。



## 新理事長あいさつ

（勸アジア女性交流・研究フォーラムの第2代理事長に、奥田八二前福岡県知事が就任しました。初代理事長の高橋久子さんが最高裁判所判事に就任したため理事長の職が空席となっていました。先の理事会において理事の互選によって決定したものです。

奥田新理事長は、九州大学教授、教養部長を務めた後、1983年に福岡県知事に就任、本年4月まで3期12年にわたり県政に携わってきました。フォーラムでは、新理事長を迎え、アジアとの交流や連携を一層充実していきます。



奥田 八二

（勸アジア女性交流・研究フォーラムの理事長就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

既に皆様ご案内のとおり、（勸アジア女性交流・研究フォーラムは、アジアの女性の地位向上のために、北九州市がふるさと創生事業で設立した市の外郭団体です。1990年10月の設立以来、アジアの人びとの交流や情報交換、アジアの女性に関する調査研究などの活動を続けてきました。県知事時代、私はフォーラムの顧問に就任しておりましたので、その活動をつぶさに見て参りましたが、年ごとに着実な成果をあげるフォーラムの活動は目を見張るものがありました。私は、高橋前理事長がフォーラムの基本構想の段階から目指してこられた、フォーラムを出会いの広場に、この出会いの中から相互理解と国際協力の可能性を引き出し実践していくという、壮大な目標を引き継いだことを誇りに思います。

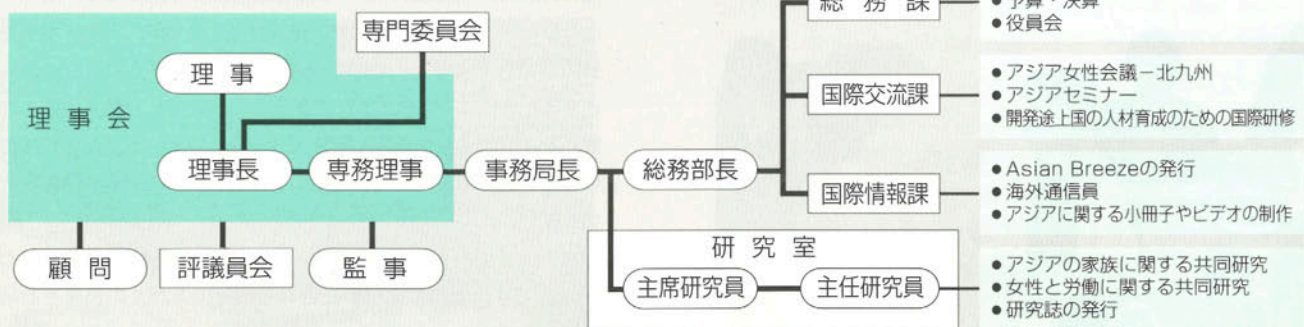
私はこれまでに、なぜ男の私が女性問題を担当する組織の長になったのかという質問を何度か受けました。思いますに、男女共同参画社会の実現が目指されている今日、次の世代により自由で住みよい世界を引き継ぐためには、男性が女性問題に取り組むことは決して不思議なことではありません。女性問題は女性の手でという従来の考え方を変更する必要があるのではないのでしょうか。

アメリカの男性法律家レオ・キャノウィッツ氏が、その著書「イコール・ライツ」の中で、女性の解放は男性にとっても利益であると述べています。キャノウィッツ氏は、アメリカの男女平等問題の草分け的存在で、「イコール・ライツ」は男性の側から男女平等の意義を論じたもので非常に興味深い本です。彼の言葉を借りれば、「女性運動の多くの目標は女性自身の努力によって達成されることはもちろんですが、もし男性が、この目標達成は男性自身の利益になるのだということを理解すれば、運動の成功はより早まることになる」のです。女性問題は人間の尊厳の問題であり、男性を含む社会全体の共通の問題であること、そしてこの解決は、男女双方にとって、より大きな個人の自由を達成することになることを理解しなければなりません。

高橋前理事長は女性問題に関する長いご経験と深い知識、幅広い人脈をお持ちで、私の力はいずれをとっても遠く及びませんが、ただ1つ、私が男性であり、男性の立場から女性問題に取り組めるということは、高橋前理事長とは違った形でフォーラムの活動に貢献できるのではないかと自負するところです。これまでアジアや女性の問題に関心を寄せていなかった男性たちが、積極的にこの分野に参画することを望むものです。私は、開発における女性の参画、すなわち「Women in Development (WID)」に取り組むと同時に、WIDにおける男性の参画、すなわち「Men in WID」に取り組んでいきたいと思えます。

しかし、正直な気持ちを述べれば、今回の理事長就任では、12年前に学者から知事に転身したときよりも大きな緊張感を味わっています。これからフォーラムのスタッフたち及び関係者の皆さんと共に学びながら理事長の職を務めていきたいと思えます。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

### フォーラム組織図





## 第4期海外通信員レポート 〈テーマ 女性と家族〉

## 女性と家庭生活

許雲那さん〈韓国〉

韓国の男性は仕事に多くを捧げ、働くことと職場での人間関係を最優先して、家のことは二の次にしています。彼らは仕事が終わった後、残業したり、仕事上のつきあいで食事をして酒を何杯も飲んだりします。そのため夜はほとんど妻と子供だけで過ごします。週末には、疲れた夫たちは家族と過ごすよりも昼寝の方を選びます。

韓国の女性は子供の教育にすべてを捧げます。子供は女性にとって唯一最大の関心事となり、女性たちが子供の教育に関する主な事項を決めていきます。熾烈な大学入試に子供を合格させるため、母親たちは、子供が幼い頃から、塾に通わせたり家庭教師をつけたりしています。子供たちには遊ぶ時間がほとんどありません。

家庭内での役割分担は非常にはっきりしています。男性がお金を提供し、女性がそれを運用します。男性は外の仕事をし、女性は家庭内の事柄に責任を持つのです。男性は家庭の問題に無関心になり、時として子供からも隔離された存在となります。女性は家事雑用すべてを行い、多くの場合それに対する評価はほとんど得られていません。韓国人の結婚は、現在でも多くが恋愛結婚ではなく見合い結婚であるため、夫婦の関係はさほどロマンチックなものではありません。

ただし、変化が生まれつつあります。最近では若い女性の間に、恋愛結婚を希望し、自分のキャリアを持とうとする人たちがどんどん増えています。しかし、夫婦共働きが増えるに従って、役割分担に関する摩擦が生じています。育児、料理、洗濯、親戚とのつきあいといったことは男性の仕事とは見なされず、ごく一部のカップルを除き、依然として女性にすべての責任が課されています。家事の責任を共有するという考え方を大多数の男性が実践するようになるまでには、まだまだ時間がかかるでしょう。子供を育てるということは、働く女性にとっては1つのチャレンジです。働く若い女性が子供を預けられるような公共の施設はあまりありません。自分たちの親に預かってもらうことができるかもしれませんが、核家族の家庭も多く、家政婦を雇って子供の世話をしてもらっているケースもあります。多くの場合、こういった家政婦たちは子供の世話に関してあまり訓練を受けていなかったり頼りにならなかったりするために、母親たちは多大なストレスを抱えます。一方で、専門職の女性が評価されたり昇進するためには、男性以上に働かなくてはなりません。

経済成長に伴って、多くの西洋文化が韓国社会に入ってきて、自分の権利や独立に対する女性の意識が高まっています。

若い世代の女性たちには、生活をエンジョイし利便性を追求する傾向が見られ、先達たちのように辛い生活に耐えることはできません。古い年代の女性たちに比べて若い年代の女性たちは、物事をより合理的に考える傾向があります。

彼女たちは、役割や責任、夜の時間を夫と分かち合うことで、そこにもっと意味のある関係を築こうとしています。家庭における女性の役割と地位は、ゆっくりとしたテンポではありますが、間違いなく確実に変化しています。

## 父親の育児参加

北原 広子さん〈タイ〉

タイの人びとは子供に優しいと私は思います。ガードマン、店員、ウエイトレス、ウェイター。男女を問わず子供好きです。赤ん坊はウエイトレスがあやしてくれるので、ゆっくりとレストランで食事ができます。

タイ人の私の夫が初めて日本に行ったとき、夜の居酒屋が会社帰りのビジネスマンでいっぱいの様子を見て「奥さんと子供はどうしているのか」と不思議がっていました。それに、子供を連れてくるのがほとんど女性であることにも。そう言えば、私がタイに来て、何か日本の景色と違うなと感じたのは、男性の子連れ姿の多さでした。日本でも最近は父親の育児参加が増えていると聞きますが、そんなことがマスコミで取り上げられること自体、母親が育児を担当、父親はあくまで手伝いという考え方の上に成り立つ現象でしょう。

学校が長期休暇のシーズンになると、会社に子供を連れて来る人が1人や2人はいます。世話していた家族やお手伝いさんの都合が悪くなると会社に連れて来るのですが、これも母親とは限りません。会社の事情にもよりますが、父親もこの役割を担います。以前、私の同僚だったタイ人男性は、小学生の娘と病弱の母、銀行員の奥さんの家庭を持ち、営業でありながら夜のつきあいは一切せず、子供の学校の送迎から母の世話までしていました。子供の学校が休みのときはもちろん会社に連れて来ていました。私は比較的時間が自由な職場なので、子供が病院に行くときなどは自分で連れて行きますが、やはり忙しい場合は、夫が交替することになります。

タイでは女性も外で働くのが当たり前なので、日本のような分業はできないという基本的な違いがあります。男性も自然に子育てをしているように見えます。こういう状況は子供にとってもよいと私には好ましく思えるのですが、日系企業の進出で、日本のような効率優先の仕事の方法に、タイも傾いていくのではないかと感じて少し憂鬱になります。仕事の能率から言えば、男性は家庭のことに煩わされずに働いた方がいいに決まっています。実は、私の夫も日系企業で働くようになってから、日曜日の接待ゴルフや夜の宴会など、その傾向が見えているのです。タイに残っている人間的生活が経済発展の中で消滅しないことを願っています。



▲出勤前に子供を学校へ送るのはたいてい父親の役割



## 別居を強いられる家族

小原 篤次さん〈フィリピン〉

「日本の雇い主はひどい。1人暮らしをさせるのよ。寂しい」と、日本へ出稼ぎに行ったフィリピン女性から、フィリピンで人類学を研究している友人あてに手紙が届きました。

ホステスや歌手などとして働くフィリピン女性が、日本で狭い部屋に何人も詰め込まれて住んでいるという報道を目にしたことがあります。日本の記者は、おそらく彼女たちの待遇の悪さを表現しようとしたに違いありません。私も日本にいたときは同じように考えていました。しかし、一部の裕福な家庭を除いて、1部屋に何人も家族と一緒に寝起きするのは、フィリピンでは自然です。個室が当たり前の日本の家庭と違い、同居人がいない方がむしろ暮らしにくいかもしれません。

ある年のクリスマスから年末にかけて、旅先のボラカイ島で、西ビサヤ大学民族舞踊団と知り合いました。12月31日の夜から翌日未明まで、最後の公演を披露した後、5人の女性部員が一齐に泣き出しました。私とまどっっていると、男性部員が理由を説明してくれました。彼女たちは初めて、親元を離れてクリスマスと新年を迎えたのだそうです。男性部員は涙こそ見せませんでしたが、「寂しい、寂しい」を繰り返しました。

こんなに家族の絆が強いのに、実際には家族が離れて暮らさなければならぬ場合が多くあります。1992年の失業率は全国平均19.9%、失業者が多いミンダナオ島南西部では、35.6%にも及んでいます。



国内で待遇のよい仕事が見つげにくいと、海外に出かけます。海外で働くフィリピン人は、6,600万の人口に対して、250万人を超えられます。中東へは建設労働者、シンガポール、香港へはお手伝い、アメリカへは看護婦、サイパン、グアムではホテルの従業員などとして、家族と離れて生活しています。

性的な被害を受けたフィリピン女性のニュースも見かけます。また、出稼ぎ先から夫や妻が帰国しないこともあり、海外出稼ぎにまつわる家族の悲劇は少なくありません。そんな危険を知りつつも、マニラ国際空港では、別れを惜しむ家族の光景が絶えません。搭乗手続きを終え入国審査の部屋に入るまで、ガラス越しに食い入るように家族の姿を追い求めています。

日本だけでなく、世界のあちこちで、フィリピン人に会える機会があるはずですが、彼女たちが家族と別れなければならない辛さを理解してほしいと思います。

## 中国人女性の離婚観の変化

朱 耀 先さん〈中国〉

改革開放政策が実施された1979年以降、中国の離婚率は、着実に増加の傾向を見せています。離婚数が婚姻数に占める割合は、1981年の4.7%から1991年には8.7%と、10年間でほぼ2倍に達しました。もちろん、地方の離婚率は今でも非常に低い状態です。離婚率の上昇は主に大都市や中都市で起こっています。また、北京では離婚したカップルの60%以上が、妻の希望で離婚したということは興味深いことです。このような現象は、改革開放以降の人びとのイデオロギーの変化と、女性の離婚観が大きく変化したことの現れです。

非常に長い間、伝統的な考えが障害となって離婚は恥と考えられてきました。女性の中には、離婚するくらいなら、精神的苦痛を受けたり、あるいは、肉体的な苦痛を受けて病気になる方がましと考える人もいました。彼女たちは、どんなことが起きようとも、愛情の全くない形骸化した結婚生活であってもそれを続け、離婚は絶対にしません。しかし、ここ10年ほどの社会の発展や考え方の変化、女性の経済的地位の向上に伴い、女性たちの間に自活や自己決定を指向する考え方が高まってきました。女性は、自分の人格と尊厳について考えるようになり、自分自身の価値に気づくようになりました。死ぬまで夫に忠実で、結婚した相手には永遠に従うという封建的で伝統的な考え方をかなぐり捨てた女性はどんどん増えていきます。彼女たちは、自分自身の幸福と権利を求め、自分の手で自らの運命をつかみ始めました。これは離婚の自由という原則が実行に移されていることを示しています。また、男性だけが妻を捨てたり夫

家に帰らせることができ、女性の方から別れる権利はないという不平等な関係から、多くの女性が抜け出したということも示しています。女性は離婚や再婚の自由において、男性と等しい権利を享受しているのです。

もう1つ注目すべき事実は、昨今は、合意による離婚が増えていることです。多くの女性は離婚に際して、冷静でよく考えた合理的な態度で対応しています。女性たちは、以前のように自殺すると夫を脅したり、延々と泣きわめいたり、夫と敵対することはありません。お互いに冷静かつ友好的にさよならを言うのです。よい出会いとよい別れは、歴史的進歩と社会文明の現れであり、結婚と家庭における女性の地位向上の証明です。

中国で離婚率が上昇し、多くの女性たちの離婚観が変化したことには、社会的な原因があります。改革開放以後、社会的様相や人びとの結婚生活に大きな変化が起こりました。それに伴い、家庭の機能は、従来の「出産共同体」と「経済共同体」から、思いやりが深く魂の安らぎの場である「文化的・精神的共同体」に変わり始めています。人びとは結婚生活に、ますます内面の精神的な要素を求めるようになっていきます。同時に、改革の高まりの中で成熟した女性が増えています。そのような女性たちは、仕事における成功によって自信を持つようになってきており、結婚生活においても、人に頼らず自己決定を行うようになってきています。このようなことすべてが、自ら離婚を望む女性が増えた背景となっています。



## 女性、家庭そして宗教

Swapna Majumdarさん〈インド〉

インドの家庭において、宗教は重要な役割を果たしています。家族を1つに結びつけているだけでなく、広範囲にわたって家族の行動パターンを決定づけているのです。従って、信仰している宗教がヒンドゥー教かイスラム教か、キリスト教か、あるいはシーク教かによって、それぞれの家庭の考え方は異なってきます。

インド人の大多数はヒンドゥー教徒で、このヒンドゥー教は平等の権利を普及させる宗教であるにもかかわらず、いくつかの重要な事項に関しては女性が完全に無視されています。なかでも一番はっきりとした例は、血族の死に際して行われる最後の儀式です。その人がどんなにに近い存在であっても、この最後の儀式を取り仕切るのは男性の親族です。父親や母親が死んでも、その娘は最後の儀式を行わせてもらえず、火葬用の積み薪に火をつけることも許されません。そして男性の親族が、どんなに血の繋がりが遠くても、その権利を与えられるのです。

また男性は、聖職者になったり宗教的な儀式を司ることを男性だけに与えられた神聖な権利であると考えているため、これが女性に許可されることも稀です。南インドのある寺院では、女性を敷地内に入れると礼拝が汚れると信じられています。女性たちはこの不合理に対して反対の声を上げています。しかし、宗教は微妙な問題であるため、裁判所も政府も紛争に巻き込まれるのを嫌がっています。しかし最近、寺院の改築工事を監督したいという女性の州知事の申

請が裁判所に認められるという1つの進展がありました。ただし、裁判所は彼女に対して、入っていいのは寺院の階段のところまでとし、聖所に入ることは禁止しました。それでも、彼女が寺院の敷地内に入った最初の女性となったことは間違いありません。

もう1つ、政府が禁じているにもかかわらず相変わらず広く行われている宗教的な慣習が、妻の殉死です。これもまたヒンドゥー教の慣習です。この慣習が始まったのは、ムガル帝国がインドを征服した時代です。王たちが戦場で死ぬと、王妃は火葬用に積みされた薪の上の夫のなきがらの隣に座りました。そして積み薪に火がつけられます。昔の女性たちはしばしばこういった形の自殺をして、傍若無人な戦士たちによる屈辱的な行為から身を守りました。この考え方がインドの一部、特に西インドのラージャスターンに広く普及してしまいました。妻は結婚衣装に身を包み、積み薪の上に座ります。さらにこの慣習の恐ろしいところは、花嫁がまだ十代の子供であったりするという事です。こういった非人間的な慣習が今も続いている大きな理由は、家族や政治家が自分たちの利益を守るために奨励するという事実があるためです。従って、女性たちがこのような慣習を拒否しない限り、悲劇は今後も続くことになるでしょう。

## スリランカの漁師の家庭

W. M. Kamani R. Balachandraさん〈スリランカ〉

スリランカは四方を海に囲まれた島で、海岸沿いに暮らす人びとの主な職業は漁師です。彼らは全般的に貧しく、苦しい生活を強いられています。

スリランカの漁師は、次の2つのカテゴリーに分類されます。1つはトロール船のような大きな漁具を所有し、6人から8人ぐらいの人を雇用している富裕な漁師。いま1つは、小さなボートや、木でつくった筏のような船で漁に出る貧しい漁師です。

貧しい漁師の生活は非常に哀れです。彼らは粗末な家に住んでおり、土地は持っていません。国有地や海沿いの公共保留地に不法居住しているのです。

漁師の妻の1日は深夜をほんの少し回った時刻から始まります。彼女たちは早く起きて、夫が漁に持っていくための食事を用意します。食事の用意が終わると夫の荷物をまとめ、夫について浜辺の船着場まで行きます。夫が漁に出ると、子供の世話や朝食の用意、子供を学校に行かせる準備などに時を費やします。その後は、水汲みに遠くまで出かけて行きます。

漁師の家庭が日常生活で直面している重大な問題の1つが水です。きれいな飲用水は遠く離れた場所から運んでこなくてはならないため、非常に貴重です。漁村では、女性たちが頭の上に水壺を載せて歩いている姿をよく見かけます。水を運んだ後、妻たちは漁を終えて帰ってくる夫を待ち、網にかかった魚のより分けをします。より分けが終わると、妻は魚を市場に運びます。魚を売った後、米



や野菜、その他必要な物を買って家に帰り、家族の食事の用意をします。

漁師の生活は全般的に非常に苦しく、余暇時間の過ごし方と言えば酒を飲むことだけです。漁師の生活水準を引き上げようとするならば、衛生管理と住居に関して最高の配慮をする必要があります。なぜなら、海沿いの地域に暮らす人びとは病気にかかり、さまざまな熱病や疾患の犠牲となっているからです。女性や子供たちは、極めて非衛生的な環境の中で暮らしており、これが未熟児の死亡や奇形児出産の原因になっています。

12~13歳の少年たちは、学校に行かずに父親について漁に出ています。娘は、16歳になると、18~20歳の若者と結婚するというのが一般的な慣習になっています。その理由は、子供がたくさんいるために両親が面倒を見る余裕がなく、また父親の収入が子供全員を手元に置いておけるほど十分ではないということにあります。母親は賃金労働者ではないので、こういった状況に対してなすすべを持ちません。



## 第5期海外通信員紹介

アジア女性交流・研究フォーラムでは、アジア諸国との幅広いネットワークを形成するため、1991年に海外通信員制度を設けました。この制度は第1期の6人からスタートし、この4年間で述べ57人の通信員が誕生しました。

女性問題の専門家やジャーナリスト、NGO活動家、主婦などさまざまな職業の通信員が、それぞれの分野・立場・視点からその国の女性の状況を報告してきました。統計資料を使って客観的な分析や解説をしたものからエッセイ風のものまで、非常にバラエティに富んだレポートが集まり、Asian Breezeの海外通信員レポート欄も毎回好評を得ています。また、近年、アジアがメディアにも注目されていることから、海外通信員が新聞やテレビの取材に協力するなど、活動の範囲も広がりつつあります。

今年は14か国から33人の応募があり、この中から12か国16人の皆さんを通信員に決定しました。最近の傾向としては、インドやスリランカ、ネパールなど、南アジアからの積極的な応募が増えています。また、男性の応募も増えました。さらに今年は、日本語を勉強しているモンゴルの女性や、タイに住むオーストラリア人の女性など、新しいアジアの顔も登場しました。

### テーマ：女性と労働

通信員活動の今年のテーマは「女性と労働」です。社会や家庭の中で女性が携わってきた労働は、内容や形態、周囲の環境など時代とともに変化し、多様化してきました。そこで今年は、社会のさまざまな場面における労働者としての女性の姿をいろいろな角度からレポートしてもらいます。

応募レポートの中には、低賃金・長時間労働の女性、農業分野での貢献にもかかわらず労働者として認識されないシャドウワーカーの女性、セクシュアル・ハラスメント、海外で働く女性労働者の人権問題、売春問題など女性が直面している多くの現実が綴られています。しかし、同時に、新しい分野へ挑戦し世界を切り開いていく、意欲的で力強い女性の姿もあります。

第4回世界女性会議の開催を目前に、女性に関する論議がさらに活発になることが予想されます。在住者ならではの地域に根ざしたホットな情報にますます期待しています。



▲インドの農村の女性



Amreen Kabirさん  
〈 Bangladesh 〉

ダッカ大学で経済学を専攻している22歳の学生です。そのかわり、政府女性省主催の短期コースで英語資格を取ったり、教育方法論を学んだりもしました。



Swapna Majumdarさん  
〈 India 〉

10年来のジャーナリスト活動の結果、国連から賞や奨学金を受ける栄誉を得ました。昨年は、フォーラム主催の海外通信員セミナーにも参加しました。



郭学徳さん  
〈 China 〉

河南省政治学研究所教授で、政治学や社会学を研究しています。昨年まで妻の朱耀先がフォーラムの海外通信員をしており、私も女性問題に深く関心があります。



Hertami Djatnikoさん  
〈 Indonesia 〉

婦人の役割省公教育・研修担当副大臣補。20数年間にわたって人材開発の仕事に従事し、現在は視聴覚機材を使った教育にも取り組んでいます。



A. Dassさん  
〈 India 〉

南インド・タミルナードゥ州のPOLEというNGOに勤務しています。ノンフォーマル教育や女性の所得向上のための自営業奨励を行っています。



Kristina Ramlanさん  
〈 Malaysia 〉

アジア・太平洋女性研究センターに勤務。出版物の編集や記事の執筆、レイアウトを担当しています。「女性と労働」というテーマに強い関心を抱き応募しました。



Rajni Tandanさん  
〈 India 〉

フリーのジャーナリスト。今年の世界女性会議に出席する予定です。6か国語を話すことができ、女性や環境問題についても調査・研究をしています。



ビャラ・サンジテマーさん  
〈 Mongolia 〉

ウランバートルの外国語大学ロシア語学科に入学後、日本語に興味を持ち、独学でマスターしました。趣味は、デールというモンゴルの民族衣装を作ることです。





**Jamal Devi Shresthaさん**  
〈ネパール〉

トリプヴァン大学経済学部の準教授で女性の労働や人口に関する数かずの調査を行っています。国内外を問わず、多くのワークショップやセミナーに参加しています。



**Lalith Weeratungaさん**  
〈スリランカ〉

スリランカ政府に勤務して19年。職業訓練や高等教育などのシステムづくりに携わってきました。今年2月から総理府次官を務めています。



**Semmi Waheedさん**  
〈パキスタン〉

パキスタン行政官研修研究所上級研究員。都市に住む貧しい女性たちに対する仕事や健康、貯蓄などの情報提供や相談のボランティア活動にも従事しています。



**Dhiarthai Suvansavetrさん**  
〈タイ〉

銀行に勤めた後、15年間ESCAPで研修計画作成に携わりました。現在は、弁護士として法律相談の仕事をしています。



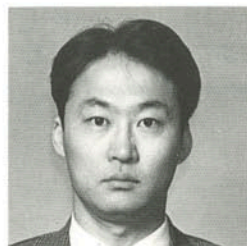
**Estrella M. Maniquisさん**  
〈フィリピン〉

デブスニュース・ウィメンズサーブिस設立当初からの編集長。アジア各国の女性問題に関する情報の発信源となるよう頑張っています。



**Natalie L. Bennettさん**  
〈タイ〉

タイ女性問題国家委員会にボランティアとして勤めるオーストラリア人です。タイの女性について内と外の両面から見たレポートを送りたいと思います。



**辛承俊さん**  
〈韓国〉

大邱の啓明大学卒業後、日本の上智大学に留学し、夏目漱石を研究しました。現在は、地方自治団体国際化財団企画研修部次長として国際交流業務を担当しています。



**北原 広子さん**  
〈タイ〉

バンコクに来て、はや6年。夫は、タイ人です。今年は第2子出産予定なので、子育てと仕事の間に関するタイ女性の意識を探りたいと思います。

## フォーラムの窓

### 社会開発サミットNGOフォーラムのこと

1995年3月上旬、コペンハーゲンで開かれた「世界社会開発サミット」と並行して開催された「NGOフォーラム'95」に参加した。最近の一連の国連の会議を通じて、女性が、会議の宣言や行動計画に女性の視点を反映させる手法を身につけてきたことはよく言われるが、このサミットでもさまざまな場面でそのことを実感した。そのハイライトは3月8日の「国際婦人デー」で、この日のNGOフォーラムは、女性による女性のプログラムが盛りだくさんだった。なかでも圧巻は「180日間/180の方法 女性の行動キャンペーン'95」の開始集会であった。これは、この日から9月に北京で開かれる第4回世界女性会議までの180日間、女性が社会を変えるための180のやり方を示そうと呼びかけたもので、まさに社会の変革者としての女性を高らかに宣言するものと言える。

ひと昔前ならばこのような会場の雰囲気には、勢い込んだものがあつたのではないかと思うが、コペンハーゲンの場合は実にリラックスしていて、女性の自信を感じさせた。ライラック色と淡い黄色の2色の布で作った小旗を振りながら、会場の皆が一緒に歌うように盛り上げたのは、白髪混じりのジーンズをはいた女性で、若いとは言えないその女性が舞台の上を踊るようにしながら会場をまわっている姿は、北欧でのサミットらしいと思えた。また、会場に集まっている人びとも老若男女さまざまで、女性の行動キャンペーンが女性だけのものではないことを示していた。この集会に続いて行われた市の中心部までのたいまつデモにも、寒い夜にもかかわらず多数の男女が参加していた。

90年代以降の環境、人権、人口といった地球規模のさまざまな課題を討議した国連の会議では、貧困解消がこれらの問題解決の基礎であることが常に指摘されてきた。今回のサミットではさらに進んで、女性が世界の貧困層の多数を構成しており、しかも良好な就業機会から閉め出されていることが問題として認識された。女性に良好な雇用機会を与えることが貧困解消につながり、それが地球規模でのさまざまな課題の解決をも導くと言える。既にいくつかの女性のNGOは女性が潤うような世界経済システムの再構築を模索し始めており、例えばDAWNは、ヨーロッパの女性のNGOなどと共同で「女性のための市場への挑戦」と題する意欲的なラウンド・テーブルを形成した。過去20年間、女性は周辺から主流へと進んできたが、今や世界をまるごと変えようとしている。9月の北京会議では、女性はどうのような21世紀を作りたいと考えているかを話し合い、世界に問うことになろう。楽しみである。

(財)アジア女性交流・研究フォーラム  
主任研究員 **織田 由紀子**



# INFORMATION

## ●事務所移転

アジア女性交流・研究フォーラムは、下記のとおり、事務所を北九州市大手町ビルに移転しました。

このビルには、フォーラムのほか、東アジアの経済問題の研究機関である国際東アジア研究センターや、北九州の都市問題を調査研究している北九州都市協会などが入居しました。また、7月1日には、北九州市立女性センターも開設されることになっています。これまで同様、お気軽に足をお運びください。

住所：北九州市小倉北区大手町11番4号  
北九州市大手町ビル3階  
TEL：(093) 583-3434  
FAX：(093) 583-5195



- JR小倉駅からタクシー8分
- JR西小倉駅から徒歩15分
- 九州厚生年金会館前バス停から徒歩1分

## ●ご寄付ありがとうございました

フォーラムの基本財産に、下記の皆様からご寄付をいただきました。ありがとうございます。(敬称略)

池田興業(株)、(有)エディックス、キング紙文機(株)、(株)小倉玉屋、(株)ゼンリン、よしみ工産(株)、若築建設(株)

※Asian Breezeleに対するご意見やご感想をお寄せください。  
※掲載記事などの無断転載・複写を禁じます。

## ●第4回女性情報国際セミナー

女性の地位向上のための行政官セミナーに参加するアジア、中南米、アフリカの11か国11人の行政官が、セミナー期間中、各国のカントリーレポートの発表を行います。

日時：1995年7月19日(水) 10:00~16:00

会場：北九州市立女性センター 大セミナールーム

参加申込は、フォーラム(093)583-3434まで。

## ●北京会議NGOフォーラム報告者を募集

フォーラムは、本年11月17日(金)~19日(日)に第6回アジア女性会議-北九州を開催し、この中で、北京会議NGOフォーラム報告会を開く予定です。この報告会は、北京会議でワークショップを実施した団体・グループに、北京会議の成果と今後の課題を報告してもらい、情報交換や意見交換を行うとともに、今後の連携の可能性を探るために行うものです。

多くの団体・グループのご応募をお待ちしています。

■募集団体数：5団体

■応募資格：第4回世界女性会議に参加し、ワークショップを実施する予定の団体・グループ

■応募方法：次の書類をフォーラムへ提出してください。

- ① 団体・グループ名
- ② 発表予定者の氏名、連絡先
- ③ ワークショップのテーマと内容(200字程度)

■締切：8月25日(金)

■その他：①発表は1団体15分です。

- ② 1団体につき1人分の交通費・宿泊費(実費)、資料作成費20,000円を支給します。

■詳しいお問合わせは、フォーラム(093)583-3434まで。

## 編集後記

目まぐるしく変化する社会の動きや大きなニュースに振り回され、静かに考えたり学んだりすることを忘れていた昨今を反省。戦後50年、ベトナム和平20年、男女雇用機会均等法施行10年、世界女性会議など糸口は多いはずです。 <S>



財団法人 **アジア女性交流・研究フォーラム**

〒803 北九州市小倉北区大手町11-4 北九州市大手町ビル3F  
TEL(093)583-3434 FAX(093)583-5195